

踏み跡 <My Mountains>

奥志賀	発哺温泉から岩菅山	No.268
-----	-----------	--------

永年にわたって「登って見たい山」にリストアップしたままになっていた岩菅山（いわすごやま）。志賀高原の奥にあり、東京圏からの日帰りは困難な山。若いころにスキーにのめり込まなかったため、この歳まで志賀高原へ出向く機会がなかった。

昔は夜行列車があったのでどこへ行くのにも便利だったが、近頃はそれが無いのでこういう不便な山へ行くのには最短でも数日の日程を必要とする。おまけに、かみさんと出かけるにあたって老母を残して出かける日数をできるだけ短くしなければならず、色々調べている内に夜行バスの存在が目についた。東京駅から湯田中温泉へ行く夜行バスを往復とも使って（両夜行）みることになった。



平成8年7月21日

昼間は雨だったが夜になったら上がってきた。夕食を済ませてから東京駅の長距離バスターミナルへ。東京駅八重洲口 23時30分発。リクライニングシートの座席、缶ビールの勢いを借りてすぐに眠りにつく。

平成8年7月22日

目が覚めてひといきついたところで、車内で持参した朝食をいただく。

湯田中温泉 7時10分着。奥志賀行のバスは7時25分発、発哺温泉までは900円。

発哺温泉（海拔1600m）8時11分着。水を汲んで東館空中ケーブルのゴンドラに乗車、8時40分発。標高差300m余を一跨ぎして高度を稼ぐ。大森六中の中学生の団体と一緒にいたので、ちょっとにぎやかなスタートになってしまった。ゴンドラの下には満開のニッコウキスゲの広がり。

東館山 8時50分。寺子屋峰を目指して、スキー場を横切って行くとすぐに登りが始まった。さほど急でもない登山路からは無数のネマガリダケが目に入ってくる。ガスで遠望はきかないので、ガスの切れ間に見える山並みを楽しむほかは「豊富な植物群」を楽しむことになる。

金山沢ノ頭（2085m）9時42分。晴れてはいるが、頻繁にガスに包まれてしまい落ち着いて景色を楽しむことはできない。ここでも高校生や中学生の団体に遭遇。

岩菅山（2295m）12時。稜線の東側は岩場になっており、岩を積み重ねた祠のようなものが立っている。かたや西側は笹山になっており、一隅に三角点がひっそりと立っている。山頂で昼食と昼寝とを合わせてゆったりとした大休止。13時半に出発。

裏岩菅山を往復してから下山しようと話していたが、途中でネマガリダケを採りながら下る話にそれてしまい、すっかり忘れて下りに入ってしまった。急遽ノッキリから一の瀬へ下るという作戦に変更して下り始めたが、ネマガリダケは成長しすぎていて、食べごろの物を探すのが大変。再び作戦を変更して往路を戻ることにした。

東館山 16時30分、ゴンドラで発哺温泉へ。発哺温泉 17時11分発のバスで湯田中温泉へ。

湯田中温泉 17時59分着、駅前のホテルで入浴と食事と休憩。黒ビールと鬼ごろして睡眠準備を整えて21時45分発のバスに乗車。

踏 み 跡 <My Mountains>

平成8年7月23日

東京駅に6時10分に帰着。バスの中で熟睡できたので、さわやかな朝。遠望には恵まれなかったが花が豊富で十分に楽しむことができた岩菅山を振り返りながら家路についた。

岩菅山登山を達成すると、次には鳥甲山と行きたいところだが……。秋山郷へも行ってみたいが……。などなど夢が広がってくる。

以上

